

## 第1回アジア・太平洋水サミット オープンイベント開催記録

イベント名	河川環境と水資源を考えるシンポジウム
主催者	河川環境と水資源を考えるシンポジウム実行委員会
開催日	2007年12月 <input type="checkbox"/> 1日 <input checked="" type="checkbox"/> 2日 <input type="checkbox"/> 3日 <input type="checkbox"/> 4日 <input type="checkbox"/> 5日
開催時間	9:00～12:00
開催場所	<input checked="" type="checkbox"/> 別府市内 <input type="checkbox"/> 大分県内 <input type="checkbox"/> その他
会場名	別府市社会福祉会館
参加人数	100名

### 開催概要（900字以内）

我が国では高度成長期に治水利水を目的とした河川改修やダム建設などを行い、我が国の経済成長や安心した暮らしの確保に大きく貢献してきた一方で、川の自然環境に大きなダメージを与えてきた。そのダメージを軽減し、あるいは回復させる試みが始まり、平成9年には河川管理の目的として治水・利水に加え環境が位置づけられる河川法改正が行われた。現場においては、多自然川づくりを基本として、河川整備に当たっての河川環境の整備と保全の取り組みが進められてきた。また、ダムや堰による水流の分断や流況変動の緩和に関しても、河川環境を改善すべく様々な取り組みが行われている。

このような我が国の経験と現状は、アジア太平洋諸国における水資源の確保と環境の調和と共生を図る上で重要な示唆を与えうるものと考えられる。また、気候変動が社会問題として現実味を帯び、水資源の確保との関係ではより厳しい環境になることも想定され、国際的には、環境と開発の調和がより難しい局面を迎えることも予想される。そのため、国際的な見地からこのような議論を行うことは、我が国の河川環境のさらなる改善を見据える上でも貴重な機会になると考えている。

上記を踏まえ、「河川環境と水資源を考えるシンポジウム」を開催し、日本及びアジア太平洋諸国の河川環境と水資源管理に関する専門家を招待し、多方面からの意見を開陳して頂き、最終的にはそれらの意見を提言としてとりまとめた。



## 第1回アジア・太平洋水サミット オープンイベント開催記録

### 日本水フォーラムに期待すること（600字以内）

この度のオープン・イベントに招待した国内外の専門家から、最新の水に関わる問題点とその対応状況について聞くことができ、かつ有意義なコミュニケーションを取ることができた。我が国ではともすると国内問題にのみ目が行きがちであるが、今回のような機会を通じて国際的な視野に立ち、国内外の水問題に積極的に関わることが必至なものになってくると考えられる。このような状況から日本水フォーラムには今後とも水問題に関する国際的な窓口として益々の活躍を期待する。

なお、関連諸機関においても国際セミナーが開催され、海外からも多くの専門家を招聘し、講演いただくとともに、国際会議への出席、研究発表により、我国における水問題とその対策について紹介を積極的に進めている。

今後、日本の水問題に対する国際的取り組みについて、日本水フォーラム、政府関係機関との更なる連携を行い、戦略的に取り組む必要があるものとする。

### その他（オープンイベントを開催した感想、今後の予定など、600字以内）

河川環境と水資源管理は、多くの方が興味を持っている問題であると、本シンポジウムに参加頂いた参加頂いた人数からも、再認識することができた。シンポジウムの評判も非常に良く、今後もこの問題について、国内だけでなく様々な国際的な場を通じて活発な議論を行いたいと考えている。

